令和7年度 岡山県立岡山朝日高等学校 学校評価書

【中間評価と年度末評価】具体的計画の達成状況をもとにした評価　A：重点目標を達成できた　B：重点目標をほぼ達成できた　C：重点目標を達成できなかった

【総合評価】学校経営目標ごとの総合的な評価　A：目標を達成できた　B：目標をほぼ達成できた　C：目標を達成できなかった

本年度の具体的な学校経営目標	番号	分掌	本年度の目標を達成するための各分掌ごとの重点目標	重点目標を達成するための具体的計画	具体的計画の達成状況についての評価基準	中間期の達成状況（実績と成果等）	中間評価	年度末の達成状況（実績と成果等）	年度末評価	学校経営目標ごとの総合評価
1 質の高い学習指導と高い志を抱かせる進路指導の充実	1(1)	進路指導課	・生徒一人ひとりに「いかに生きるか」を考えさせた上で、能力・適性を最大限発揮させる「入るべき大学」を目指させ、高い志を持って社会に貢献し、大学やその先の社会で生き抜いていく力の基礎を養成する。	・進路講演会、進路教養講座、ガイダンスを実施し、生き方を考える機会とさせる。 ・生徒の成績を的確に把握し、教員間で共有した指導の方向性に基づき、個人面談を行う。	・進路講演会や進路教養講座の事後アンケートで肯定的な回答が80％以上。 ・進路指導会議や検討会、担任会などを通じて、指導の方向性を十分検討・共有し、学期当初、実力考査後、模試返却時に個人面談を行う。	・事後アンケート「自分の進路や生き方などを考えるうえで参考になった」の肯定的回答（大変・少し）は94.0％（内訳60.0％・34.0％）。 ・進路指導会議や進路検討会など、学校全体の指導方針や各学年の成績を共有する会にほぼ全員の教員が参加した。1年生の類型選択や2年生の科目選択についても、教務課と連携し、各担任団で指導の方向性を確認したうえで、個人面談を行うことができている。	A	・進路講演会や進路教養講座の満足度は高かった。 ・進路指導課主催の会議で指導方針や成績を共有した上で、教務とも連携をとりつつ各生徒との個人面談が行われた。 ・学校評価アンケート（生徒10）「朝日高校は進路を考える機会や適切な情報を提供している」の肯定的回答は89.4％。 【R6:90.7、R5:91.8、R4:93.2［％］】	A	A
	1(2)	教務課	・各教科や課・室と連携し、新教育課程への対応を行うとともに、学術探究系などの類型の効果的な運用を図る。	・教育課程委員会を中心として、教育課程や類型選択の課題を解決する。情報収集を行い、新学習指導要領及び大学入試等をふまえた教育課程の修正を図る。 ・各教科や課・室と連携して、学術探究系の教育活動の効果的な実施、及び、生徒の適切な類型選択を支援する。	・学校評価アンケート（生徒6）「朝日高校では、興味・関心、適性・進路に応じて、科目・コースを選択することができる」の肯定的回答が85％以上。 【R6:83.4、R5:88.2、R4:88.8、R3:95.9［％］】 ・同（教員6）「朝日高校は、生徒が興味・関心、適性、進路に応じて学習を進められるように、科目・コースを設定している」の肯定的回答が85％以上。 【R6:92.7、R5:89.1、R4:87.9、R3:88.3［％］】	・類型選択・科目選択については、教科や学年と協議し、説明資料等の改善ができている。 ・芸術選択生徒の地歴科目の選択上の課題、および、理Ⅱコースの扱いについて、担当学年と教科と相談して対応した。 ・1年生の学術探究系の選択については、学術探究推進室と連携して生徒および担任団を支援していく。	B	・学校評価アンケート（生徒6）「朝日高校では、興味・関心、適性・進路に応じて、科目・コースを選択することができる」の肯定的回答が85.5％。 ・現1年（令和7年度入学生）から文系・学術探究系Ⅰの地理探究を開講可能とし、希望者の人数が必要数以上あったので来年度開講する。 ・学術探究系については過去3年間とほぼ同じ希望人数であり問題ない。学術探究系の内容についてはさらに充実させていくことが課題である。 ・学校評価アンケート（教員6）「朝日高校は、生徒が興味・関心、適性、進路に応じて学習を進められるように、科目・コースを設定している」の肯定的回答が87.8％。 85％以上であるが過去3年間で一番低い。生徒や保護者に、科目・コース選択についてさらに理解を深めていただけるようにしていくことが課題である。	A	
	1(2)	学力向上推進室	・生徒の学力向上のため、教員の授業力の向上を図る。	・授業力向上に向けて効果的な取り組みについて共有し推進する。 ・授業アンケートについて、成績層別に分析した授業評価を各教員にフィードバックする。	・効果的な実践や研究会の紹介を年3回以上行う。 ・授業アンケートにおける授業満足度（4件法）の指数が1.70以下。（数値が小さいほど高評価となる） 【R6:1.54、R5:1.55、R4:1.52、R3:1.48】 ・学校評価アンケート（教職員8）「授業力向上のための研修や教員相互の研修が積極的に行われており、内容や方法について改善している」の肯定的回答が90％以上。 【R6:92.7、R5:87.3、R4:91.4、R3:96.0】	・一学期公開授業における授業見学は専門95％であり、教科間での授業見学は100％近い実施率であった。現時点で専門外27％、2学期中に100％実施を目指す。特にベテラン教員の授業の見学を促し、朝日の指導の勘所をつかみ授業力の向上を図るように呼びかけをおこなっていきたい。 ・授業アンケートは、新任の先生について1学期末実施。2学期末の全教員（常勤）に対しての実施準備が予定通りに進行している。 ・今年度は予算がおりて、学校訪問が可能となった。全国に広く目を向け、県外トップ校を訪問することで、朝日高校の伝統に基づく守るべきものと新しい視点を得、朝日における授業力の向上と進路指導のあり方の参考としたい。	B	・今年度は久留米大附設高校・熊本高校を訪問し、県外トップ校の取り組みを紹介することができた。また、補習科での公開授業や指導教諭の公開授業等を例年通り行い、授業実践を相互に共有した。 ・授業見学ならびに参観シートの提出率は、専門分野で86％、専門外で72％。100％に達しなかったが、高い割合で授業見学が実施されており、校務で日々忙しい中でも、授業見学を行う意義を多くの教員が理解していると思われる。今後も100％を目標とする。 ・授業アンケートは、1学期末に新任者を対象に、2学期末には全教員（常勤）を対象に実施し、2学期については成績段階ごとの結果、過年度比較、教科間比較も含めて分析し、現状と課題を把握することできた。 ・授業アンケートにおける授業満足度は1.55となり、目標値を上回った。しかし、生徒の知的好奇心を刺激する授業を行うのは、一朝一夕にはいかない。今後も教員個人および教員相互の研鑽が必要である。 ・学校評価アンケート（教職員8）「授業力向上のための研修や教員相互の研修が積極的に行われており、内容や方法について改善している」の肯定的回答が79.6％。80％を下回っている。授業見学や実力考査の検討、教材研究のやりとり等、研修の機会は日々の中にある。それを教員同士で認識できるように促していきたい。	B	
	1(3)	図書課	・生徒が探究的学習や「主体的・対話的・深い学び」を行えるよう、その基盤づくりのための読書や資料収集を支援し、生徒の文化的素養の涵養を図る。	・蔵書やICT機器等の充実を図り環境を整備した上で、生徒への良書紹介を行い、読書会LHRを充実させるなどして、図書館の利用や読書を促す。 ・図書館教養講座を充実させる。	・年間利用0冊者の割合が、40％を超えない。 【R6:38.8％、R5:37.1％、R4:45.2％】 ・図書館教養講座を3回以上開催する。	・渡辺錠太郎記念教育基金の助成指定をいただき、図書を購入することができた。年間利用0冊者の割合は、現時点で77％。（昨年度同期71％） ・図書館教養講座は、1学期に俳句と数学の講座を開催し、2学期には香道の講座を開催予定である。	B	・年間利用0冊者の割合は、47％であった。 ・図書館教養講座は、3回開催できた。	B	
	1(3)	学術探究推進室	・総合的な探究の時間の学習を通じて、他教科の学習の基盤づくりとしての探究活動の充実を図る。	・1年次の総合的な探究の時間の学習プログラムのさらなる充実をはじめ、他教科の学習との関連付けや指導面での連携を進める。	・1年次の総合的な探究の時間について、学期末の振り返りにおける肯定的回答の割合が80％以上である。 【R7新規】	・従来のプログラムに加えて、フェルミ推定、先行研究調査の指導などを実施した。 ・現在、各自が設定した課題について探究活動を進めており、12月に発表会を実施する予定である。	B	・12月に、「総合的な探究の時間」と「教科情報」の合同発表会を実施した。探究方法やプレゼン資料の作成等について教科間の関連付けや指導面での連携、学習過程の効率化を図ることができた。	A	

令和7年度 岡山県立岡山朝日高等学校 学校評価書

【中間評価と年度末評価】具体的計画の達成状況をもとにした評価　A：重点目標を達成できた　B：重点目標をほぼ達成できた　C：重点目標を達成できなかった

【総合評価】学校経営目標ごとの総合的な評価　A：目標を達成できた　B：目標をほぼ達成できた　C：目標を達成できなかった

本年度の具体的な学校経営目標	番号	分掌	本年度の目標を達成するための各分掌ごとの重点目標	重点目標を達成するための具体的計画	具体的計画の達成状況についての評価基準	中間期の達成状況（実績と成果等）	中間評価	年度末の達成状況（実績と成果等）	年度末評価	学校経営目標ごとの総合評価
2 自主自律、自重互敬の精神の養成と社会性の涵養	2(1)	生徒課	・教職員全体で本校の伝統的な教育理念を共有し、自主自律・自重互敬の精神に基づき自由を尊重する態度が涵養できるよう、生徒を支援する。	・朝日祭等の学校行事や生徒会活動、部活動を充実させ、生徒の自発的、主体的な活動を支援する。 ・執行部を中心とした生徒会活動や委員会活動に、生徒が意欲的、主体的に取り組める環境を整える。	・学校評価アンケート(生徒2)「朝日高校では、自重互敬の精神を基本として、品性を高めたり、思いやりの心を育てる指導がなされている」の肯定的回答が85%以上。 【R6:87.0、R5:87.5、R4:88.6[%]】 ・同(生徒11)「朝日高校では、部活動などの課外活動が盛んで、自主的・積極的に活動できる」の肯定的回答が90%以上。 【R6:93.7、R5:92.4、R4:94.1[%]】	・朝日祭では生徒自身が考え、行動し、教員に自分たちの考えを表明するといった行動も見られ、特に3年生の仮装行列の準備においては暴風雨に遭ったが、クラスを越えて協力していた。生徒たちが自発的、主体的に活動することができており、教員も支援していた。 ・生徒会執行部を中心に生徒会活動や委員会活動において、生徒から建設的な意見が出ている。今後、内規について検討していく予定である。	B	・朝日祭、球技大会などでは、クラスを越えて協力したり、自発的、主体的に活動することができており、教員も支援していた。 ・学校評価アンケート(生徒2)「朝日高校では、自重互敬の精神を基本として、品性を高めたり、思いやりの心を育てる指導がなされている」の肯定的回答が88.3%と昨年度よりもやや上昇していた。 ・生徒会執行部を中心に生徒会活動や委員会活動において、生徒から建設的な意見が出ている。今後、SNSを用いた情報発信や生徒会選挙について検討していく。 ・同(生徒11)「朝日高校では、部活動などの課外活動が盛んで、自主的・積極的に活動できる」の肯定的回答が93.8%と例年並みであった。	A	A
	2(2)	保健・厚生課	・学校生活全般における、生徒の美意識を涵養する。	・全校生徒の美化意識を高められるよう、環境委員会の活動を中心に啓発する。	・学校評価アンケート(生徒15)【一部変更】 「あなたは、日々の清掃活動に取り組み、身の回りを整頓したり、施設設備を大切に使用したりするよう努めている。」の肯定的回答が80%以上。 【R6:79.8、R5:86.3、R4:92.6[%]】 ・同(生徒16)【一部変更】 「朝日高校では、施設設備や教室内が整美されている。」の肯定的回答が80%以上。 【R6:69.2[%]】 【参考(昨年度の質問文)】 ・学校評価アンケート(生徒15)「あなたは、日々の清掃活動に取り組んでいる。」 ・同(生徒16)「朝日高校では、施設設備の清掃・整美ができている。」	・県の通達を受け、岡山市のゴミ処理の方法を教職員全体で再確認した。教室内のゴミ箱の使用状況やゴミステーションの利用状況は概ね良好である。 ・全校生徒の美化意識を高めるため、前期環境委員会は清掃状況および清掃道具の点検活動を実施した。さらに、後期環境委員会は、環境委員が率先して清掃や美化に努めるよう働きかけた。引き続き環境美化につながる取り組みを支援したい。	B	・学校評価アンケート(生徒15)「あなたは、日々の清掃活動に取り組み、身の回りを整頓したり、施設設備を大切に使用したりするよう努めている。」の肯定的回答が88.7%に対し、同(生徒16)「朝日高校では、施設設備や教室内が整美されている。」の肯定的回答が70.2%だった。生徒の美意識は概ね良好だが、一部で美意識の欠如が感じられる環境や場面が存在すると考えられる。 ・今後、環境委員からの呼びかけに加えて、クラス担任を中心に、清掃時およびHR等で、さらなる美意識を向上させる指導が必要である。	B	
	2(3)	教育相談課	・温かく受容的な学校風土の形成を推進するため、自他ともに思いやりのある集団の形成、人間関係づくりの支援を行う。	・ピア・サポート研修、Hyper-QU、いじめ・悩み調査、LHRの実施を通して、集団理解、他者理解・自己理解を深める活動、調査を行う。 ・学校医、SC、SSWと連携し、専門的な助言を参考にし、生徒(保護者)に必要な助言、支援を行う。	・ピア・サポート研修の参加生徒への事後アンケート等で満足度について肯定的回答が80%以上。 ・教育相談関連のLHR実施後、生徒アンケートを行い、満足度について肯定的回答が80%以上。 ・学校評価アンケート(生徒12)「朝日高校では、悩むこと・困ることがあれば、さまざまな機会に先生に相談することができ、対応してもらえる。」の肯定的回答が90%以上。 【R6:88.5、R5:91.1、R4:93.1、[%]】	・ピアサポート集中トレーニングを7月22日、23日に行った。参加生徒からのアンケートは肯定的な回答が100%であり、「自分にはなかった視点が得られた」、「感覚的にわかっていることが科学的に納得できた」など、自己支援、他者支援について学問的、科学的な分析、示唆、発見、学校生活に生かせるヒントが得られた等の意見がでた。今後行うLHR活動と連動させ、保健委員を中心に学校全体に支援の輪を広めていきたい。 ・専門医、SCによるカウンセリングでは、生徒、保護者、教員に適切なアドバイス、多様な視点をいただいている。行政等の支援が必要と考えられる案件については、SSWに協力をいただき、それぞれの生徒、保護者の支援を行っている。	B	・ピア・サポート研修参加生徒の事後アンケートでは、参加生徒全員から肯定的回答が得られた。今後もピア・サポートの活動を継続しながら、生徒の視点からクラスの様子を把握する機会を得、保健委員を母体としたピア・サポーターをその他の生徒にも広げ、活動の定着と深化に努めていきたい。 ・教育相談LHR実施後の生徒アンケート満足度について肯定的回答は96%以上。 ・学校評価アンケート(生徒12)「悩むこと、困ることがあれば、さまざまな機会に先生に相談することができ、対応してもらえる」の肯定的回答は90.1%。 ・専門医やSCによるカウンセリングを行うとともに、特に家庭面での難しい案件については、SSWによる保護者や生徒との面談を行い、協力をいただきながら、それぞれの生徒への支援を進めている。	A	

令和7年度 岡山県立岡山朝日高等学校 学校評価書

【中間評価と年度末評価】具体的計画の達成状況をもとにした評価　　A：重点目標を達成できた　B：重点目標をほぼ達成できた　C：重点目標を達成できなかった

【総合評価】学校経営目標ごとの総合的な評価　　A：目標を達成できた　B：目標をほぼ達成できた　C：目標を達成できなかった

本年度の具体的な学校経営目標	番号	分掌	本年度の目標を達成するための各分掌ごとの重点目標	重点目標を達成するための具体的計画	具体的計画の達成状況についての評価基準	中間期の達成状況（実績と成果等）	中間評価	年度末の達成状況（実績と成果等）	年度末評価	学校経営目標ごとの総合評価
3 新たな社会を創造し、牽引することができる、未来に貢献する人材の育成、学校行事の充実	3(1)	グローバル教育推進室	・異文化や自国に対する理解を深め、豊かな言語力と高いコミュニケーション能力を養いながら、様々な分野で主体的に活躍できる人材を育成する。さらに、多様な価値観を持つ他者との協働を通じて、世界が抱える課題に積極的に取り組む姿勢を培う。	・生徒に海外の学生と交流する機会を年1回以上提供し、異文化理解を促す。 ・Stanford e-Japan、模擬国連、オーストラリア科学奨学生（ハリー・メッセル国際科学学校）プログラム、AIG高校生外交官プログラム、One Young Worldなど、各種留学・海外交流プログラムの奨励をする。	・各生徒（1・2年）が年1回以上海外交流を経験する。 ・各行事の事後アンケート等で満足度について肯定的回答が80％以上。 【例年:80～90％】	・グローバル教養講座を9月24日に実施。 講師：元一橋大特任教授　板野和彦氏 京都大学名誉教授　山口栄一氏 ・イギリス研修は定員40名に対し1年生44名の申込。現在選考中。 ・2年生全員に対して、オンラインでの国際交流を実施（インド、バングラデュ、フィリピン、モンゴル、台湾、ニュージーランド）。 ・Stanford e-Japan、オーストラリア科学奨学生（ハリー・メッセル国際科学学校）プログラム、AIG高校生外交官プログラムへそれぞれ1名の生徒が日本代表に選出され参加。	A	・国際交流については、1年生における実施には至らなかった。（実施率50％：2年のみ） ・2年国際交流の満足度は94.0％、1年グローバル教養講座の肯定的回答は89.6％であった。 ・One Young World（最終選考まで進出）、STUDENT EXCHANGE in 上海（選抜後に中止）、JICA中国 高校生国際協力体験プログラム（参加）、Japan-ASEAN Youth Summit 2026（世界大会出場決定）、One Young World Japan Global Leadership Campなど、近年本校生徒の応募実績がなかったプログラムにも、多くの生徒が積極的に挑戦した。	B	B
	3(2)	学術探究推進室	・学術探究系の柔軟なカリキュラムを活用し、進路実現や、教科学習の深化につながるよう支援する。	・学術探究系の生徒について、一人一人が志す進路の実現に向けて個々の探究活動の広がりや深化につながるよう、2年生を中心に、個別の面談や研修等のサポートの機会を充実させる。	・学術探究系の2年生に対して探究活動等についての個別面談・支援等を行うコーディネート役を、学術探究推進室で分担し、実施したサポートの回数が2回以上である。【R7新規基準】 ・学術探究系の2年生に対して実施する、筑波大学研修や岡山大学研修の参加生徒の事後アンケートにおける肯定的回答の割合が80％以上。【R7新規調査】	・学術探究系の2年生に対するサポートは、個別面談及び実習支援等をあわせて、最低2回以上行っている。 ・筑波大学研修の参加生徒は13名。大学教授と直接対話する質の高い研修を行うことができた。事後アンケートの肯定的回答の割合は、100％であった。	A	・岡山大学との連携事業として、放課後個別サポート（5月）、3Dプリンター実習（7月）、人文系講座（11月に国際、芸術の2分野）を実施した。事後アンケートの肯定的回答の割合は90％以上であった。 ・生徒が校外での探究成果発表会等に参加することをサポートできた。	A	
	3(3)	教務課	・生徒の創造性、リーダーシップを育成する学校行事を効果的に実施し、生徒の高い志を養成する。	・課・室・学年・教科等の関係部署と情報交換を密に行い、より効果的な学校行事を企画・運営する。 ・式典の在り方や参加生徒の心構えについて検討し、効果的な実施を図る。	・各行事の実施目的や意義を再確認し、効果的でスムーズな実施を図ることができている。 ・学校評価アンケート（生徒1）「朝日高校には、歴史と伝統に培われたすぐれた特色があると感じられる」の肯定的回答が90％以上。 【R6:92.0、R5:92.3、R4:93.9、R3:95.9［％］】 ・同（生徒19）「この1年間、朝日高校で学ぶことにより、あなた自身が成長していると感じる。」が90％以上。【R6:90.7、R5:94.4、R4：93.4［％］】	・関係部署と連携して、学校行事を順調に実施できている。 ・7月の1学期終業式については、講堂文化と熱中症対策のバランスに考慮して、昨年度と同様、講話は体育館で対面形式で、表彰式・壮行式は教室でリモート形式でおこなった。9月の2学期始業式は、進行の効率化を図り、すべて対面でおこなった。	B	・学校評価アンケート（生徒1）「朝日高校には、歴史と伝統に培われたすぐれた特色があると感じられる」の肯定的回答が92.3％。 ・同（生徒19）「この1年間、朝日高校で学ぶことにより、あなた自身が成長していると感じる。」の肯定的回答が95.0％。 数値はともに評価基準を超えたが、各行事が生徒の成長によりつながるようにしていくことが課題である。 ・1学期の終業式は熱中症対策のため、2学期終業式は寒さ対策と感染防止のため、講話を体育館で、表彰式・壮行式はリモートで行った。	B	
	3(3)	資料館	・生徒の自主的・自律的な学びを支援し、文化・芸術分野に秀でた多様な人材を育成する。	・岡山朝日文芸作品コンクールへの生徒の積極的な参加や出品を促すため、広報時期を早めて（5月）、募集期間を実質的に拡大する。 ・また、第30回記念としてGoogle Site上に過去のコンクールの受賞作品を紹介するコンテンツを（創作文学を含む）作成して広報を強化する。	・広報時期を早めて作品募集期間が実質的に拡大される。Google Siteに過去のコンクールの受賞作品のコンテンツが作成される。 ・文芸作品コンクールへの出品数が計38点以上。 【R6:57点、R5:34点、R4:38点】	・5月上旬には募集要項を公表、過去約10年分の受賞作品が閲覧可能なコンテンツ（文芸、絵画、書道部門とも）についても一人一台端末でみることができるようにした。 ・文芸作品コンクールの実質的な締め切りは例年通りの10月下旬であり、まだ作品の出品はない。	B	・文芸作品コンクールには過去2番目となる計44点の作品が出品された。今年度は講評・表彰式を落ち着いた環境（ハレノワ）の中で開催することができた。	A	
	3(4)	生徒課	・生徒が、自主的・自律的かつ探究的に勉学、学校行事及び部活動等に生き生きと取り組み、「文武両道」を貫くことで、未来に貢献できる力を身につけられるように支援するとともに、安全・安心の視点から各行事の改善を図る。	・職員会議や担任会等で、学校行事や部活動による学びの意義を確認するとともに、生徒の自由な時間を侵害しないようにするという共通理解が深まるように働きかける。 ・朝日祭等の学校行事の準備や部活動において生徒が安全・安心に活動できるよう環境を整えるとともに、部顧問会議を開催して共通理解を図る。 ・生徒自身が学校行事や部活動による学びの意義を理解し、自主的に勉学との両立を目指すように、担任からの支援を促す。	・学校評価アンケート（生徒5）「朝日祭などの学校行事は充実しており、積極的に参加できる」の肯定的回答が90％以上。 【R6：94．2、R5:95.7、R4:94.9［％］】 ・同（教職員15）「朝日高校は、部活動等の課外活動に生徒が積極的に参加し、活動が活発になるように、さまざまな面で支援している」の肯定的回答が90％以上。 【R6:96．4、R5:90.9、R4:96.6［％］】	・朝日祭の実施においては、生徒の安心・安全な活動のために熱中症予防について関係各所と連携し、文化祭、体育祭それぞれに適切な対応がとれた。 ・学校行事や部活動に全力で取り組むことの大切さを多くの教員は自覚して、生徒達への指導や支援ができている。入部率は113．6％であり（兼部を含む延べ数）、多くの生徒が部活動に参加している。また、各部活動の活動も活発で、多くの部が全国大会や中国大会に出場し、活躍している。	B	・学校行事において生徒の自主性を重んじながら安心・安全な活動を支援した。特に朝日祭では熱中症予防について関係各所と連携して対応した。 学校評価アンケート（生徒5）「朝日祭などの学校行事は充実しており、積極的に参加できる」の肯定的回答が94．4％と例年並みの高い割合であった。 ・学校行事や部活動に取り組む生徒達への指導や支援を多くの教員は熱心に行っている。入部率は113．6％であり（兼部を含む延べ数）、多くの生徒が部活動に参加している。また、各部活動の活動も活発で、世界大会や全国大会、中国大会に出場し、活躍している部も多数ある。 ・同（教職員15）「朝日高校は、部活動等の課外活動に生徒が積極的に参加し、活動が活発になるように、さまざまな面で支援している」の肯定的回答が98％と非常に高い割合であった。	A	

令和7年度 岡山県立岡山朝日高等学校 学校評価書

【中間評価と年度末評価】具体的計画の達成状況をもとにした評価　　A：重点目標を達成できた　B：重点目標をほぼ達成できた　C：重点目標を達成できなかった

【総合評価】学校経営目標ごとの総合的な評価　　A：目標を達成できた　B：目標をほぼ達成できた　C：目標を達成できなかった

本年度の具体的な学校経営目標	番号	分掌	本年度の目標を達成するための各分掌ごとの重点目標	重点目標を達成するための具体的計画	具体的計画の達成状況についての評価基準	中間期の達成状況（実績と成果等）	中間評価	年度末の達成状況（実績と成果等）	年度末評価	学校経営目標ごとの総合評価
	3(4)	保健・厚生課	・学校全体の防災・安全意識を涵養する。	・全校生徒の防災意識を高められるよう、防災委員の活動を中心に啓発するとともに、実際の災害時を想定した具体的行動を教職員、生徒がとれるような避難訓練を実施する。	・学校評価アンケート(生徒17) 「あなたは、避難訓練やLHRなどを通して、防災意識を高めている。」)の肯定的回答が85%以上。【R6:85.8[%]】 ・同(生徒18) 「朝日高校は、防災安全教育に努めている。」)の肯定的回答が80%以上。【R6:84.1、R5:82.9[%]】 ・同(教職員21) 「朝日高校は、生徒の健康の増進と安全の保持について、生徒の意識が高揚するように、取り組みを行っている。」)の肯定的回答が90%以上。 【R6:96.4、R5:92.8、R4:87.9[%]】	・避難訓練は、中間考査後の5月23日に実施した。防災委員から数名を負傷者や集合時の体調不良者を演じる生徒とし、教員に非公表で待機させ、教員側の訓練にもなる内容とした。各防災組織の教員が学校防災マニュアルにそって行動し、実践的な訓練を行うことができた。次年度に向け、避難経路や避難方法を見直し、さらに効果的な訓練ができるよう準備したい。 ・前期は防災委員による防災便りを発行し、全校生徒を啓発した。後期も前期同様に活動を支援したい。	A	・学校評価アンケート(生徒17)「あなたは、避難訓練やLHRなどを通して防災意識を高めている。」の肯定的回答が85.3%。同(生徒18)「朝日高校は、防災安全教育に努めている。」の肯定的回答が84.9%。 ・同(教職員21) 「朝日高校は、生徒の健康の増進と安全の保持について、生徒の意識が高揚するように、取り組みを行っている。」)の肯定的回答が91.8%。 ・いずれも評価基準を上回った。	A	
	3(4)	広報連携推進室・地域	・小・中学生とその保護者等に向けた広報活動を充実させ、本校の魅力の発信に努める。	・オープンスクールと学校説明会において、児童生徒・保護者に向けた本校の魅力の発信の充実を図る。 ・中学校と情報共有する機会を充実させ、本校の各種行事や特色の魅力を発信する。	・オープンスクールの参加者アンケートで「本校の魅力を感じた」についての肯定的回答が90%以上。 【(全体的な満足度)R6：97、R5：99[%]】 ・訪問した中学校が40校以上。【R7：新規基準】	・オープンスクール(以下OS)の事前広報等を推進室以外の教員の協力を得て実施した結果、OSの申込者数は過去3年間で最も多い1099名となった。【R6：1000、R5：1094[名]】 ・OSの参加者アンケート「本校の魅力を感じた」の肯定的回答は98%であった。 ・現時点では、65校の中学校に訪問できた。【R6：10、R5：10、R4：35、R3：37[校]】	A	・昨年度の総括を生かし、10月の学校説明会の内容を刷新し、独自入試問題について各教科主任から説明する内容へ変更した。申込者数が、過去3年間で最も多い426名となった。【R6：352、R5：390[名]】 ・本校の魅力が十分には伝わっていない現状を、中学校訪問等から把握している。広報について発信内容、手法の見直し、オープンスクールの内容の見直し等を検討する必要がある。	B	
	3(5)	ICT活用推進室	・1人1台端末の活用による質の高い学習指導を推進する。	・各教科等と連携してChromebookを用いた実践事例を共有し指導力向上を図る。 ・デジタル採点システム「百問繚乱」の教員講習会を年1回以上実施する。	・12月までに10例以上を収録した実践事例集を作成し、昨年度のものも含めてデータベースを構築している。 ・すべての教科が、「百問繚乱」の効果的な活用例を研究・共有し、実際に使用している、または、使用できる環境を整えている。	・10月の職員会議で、実践事例集を作成する旨の連絡をする予定である。 ・2学期中に希望教員を対象に「百問繚乱」の講習会を実施する予定である。	B	・「百問繚乱」の講習会は希望者がいなかったので、実施しなかったが、必要に応じて対応していく予定である。 ・実践事例集は各教科主任が入力したものをとりまとめた。	B	
4 信頼される学校づくりに向けた、不適切な指導・ハラスメント防止の取組の推進	4(1)	管理職	・教職員一人ひとりが日々の業務において、不適切な指導・ハラスメントに対する意識を向上させ、互いを尊重し支え合う学校文化を築き、温かく受容的な学校風土を醸成する。 ・県教委から示された「再発防止策」の徹底と効果的な研修を通じて、教職員の倫理観と指導力の向上を図り、生徒や保護者からの信頼を一層高める。	・教職員対象の研修を定期的に実施し、事例研究やグループワークで理解を深める。 ・ハラスメント相談窓口の明確化と、周知徹底を図る。 ・アンケート調査を実施し、現状把握と改善に繋げる。 ・管理職による巡回や個別面談等で意識啓発を図る。	・ハラスメント発生件数が0件である。 ・生徒・保護者アンケート結果により不適切な指導に係る現状を把握し改善策を検討するなど、適切に対応できている。 ・学校評価アンケート(教職員29)「1年間、この学校で教育することで、自分自身が充実感や満足感をもつことができている」の肯定的回答が80%以上。 【R6:81.8、R5:78.2、R4:67.2[%]】	・県教委の示す再発防止策に関する教員および生徒に対する研修は1学期に計画通り実施した。 ・生徒・保護者アンケートをそれぞれ7月、9月に実施し、現状を把握し、改善策をまとめた。今後は研修成果を活かし、教職員の意識向上を図り、信頼される学校環境の実現を目指す。	C	・ハラスメントが疑われる事案が発生し、「発生件数0件」は達成できなかった。 ・学校評価アンケート(教職員29)「1年間、この学校で教育することで、自分自身が充実感や満足感をもつことができている」の肯定的回答は73.5%に留まり、目標を下回る結果となった。 ・研修を計画的に実施し、不適切な指導の防止や意識向上に努めたものの、温かく受容的な校風の醸成や教職員の充実感向上については道半ばと言わざるを得ない。 ・現在は発生した事案への改善策を迅速に実施し、生徒・保護者との信頼回復に注力している。今後は再発防止策をより形骸化させず徹底し、互いを尊重し合える組織体制の再構築が急務である。	C	C